

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市農業振興課 Tel.924-3761)

「Vol.2 育苗後半～田植え」

次回は5月上旬 (田植え～本田初期管理)

天気予報 (仙台管区気象台発表 3月21日付け1か月予報、3月25日付け3か月予報 から抜粋要約)

時期	天 気	気 温
4月	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	平年並みまたは高い確率ともに40%です。
5月	天気は数日の周期で変わるでしょう。	平年並みの確率が40%です。
6月	前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。	平年より低い確率が40%です。



緑化・硬化期

1 苗が緑色を帯びるまで ～昼25℃、夜15℃を目安に管理しましょう～
苗に急に強い光を当てると白化苗となることがあります。1葉期までは強い光を避けましょう。温度管理に留意し、高温による苗ヤケ、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

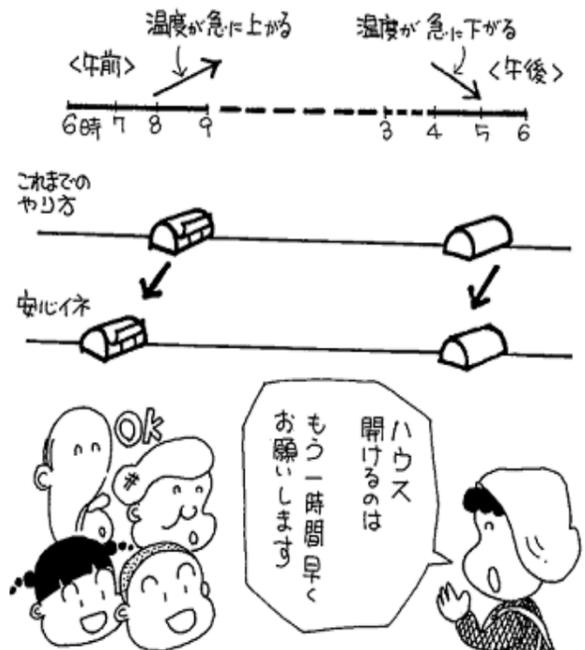
2 1.5葉期から
苗が緑色になったら、十分光に当てます。温度は昼25℃～20℃、夜15℃～10℃を目安とし、徐々に自然環境に順応させます。

3 温度管理
ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認しましょう。特に晴天時は、ハウス内の温度が朝は急に上がり、夜は急に下がるので、ビニールの開閉は早めに行いましょう。

4 かん水
1日1回、朝にたっぷりとかん水します。万一乾いた場合には、昼頃に追加かん水します。夕方のかん水は、地温を下げ根張りを悪くするので、行わないようにしましょう。

5 追肥
中苗は、葉色がさめないよう、2.5葉期ごろに1箱あたりチッソ成分1g程度を追肥します。また、田植え時に風が強く、初期生育が悪くなるような地域では、田植え2日前頃に育苗箱1箱あたりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着がよくなります。
チッソ成分1g/箱の目安は、稚苗用液肥源(15-19-15)の場合約6g/箱です
100箱の場合は、水50リットルに稚苗用液肥源(15-19-15)を600g溶かし、箱あたり0.5リットルを散布します。高温時は散布をさけましょう。

●育苗ハウスの開け閉めは



6 プール育苗での注意点

通常の育苗と比べてかん水や温度管理が容易であり、根張りが良好となるため、プール育苗を導入する方が増えてきています。

以下の点に注意して取り組んでください。

- 1葉期までは通常管理をします。
水を入れる前はハウスが高温になりやすいので、温度管理に気をつけましょう。
- 1～1.5葉になったら水を入れ、昼夜ともサイドビニールを開放します。
プールに早く水を入れすぎると湿害が生じる場合があります。
- ハウス内温度は低めに管理し、苗が伸びすぎないようにしましょう。
- 苗が水没すると生育不良になるので、水深は草丈の半分以下に保ちます。

苗種ごとの播種量と育苗日数の目安

苗種	播種量 (乾籾重/箱)	育苗日数	葉齢	備考
稚苗	200g	20～25日	2.0～2.9	催芽籾は、乾籾の1.25～1.3倍重になります。
中苗	100g	30～35日	3.0～3.9	

ばか苗病の発生が増加しています！育苗中に発生した場合は抜き取りを実施し、罹病苗を本田に持ち込まないようにしましょう！

育苗中の病害

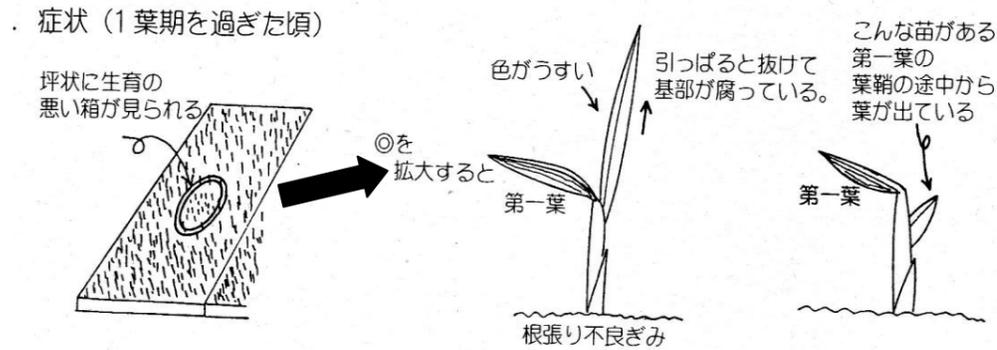
【もみ枯細菌病】 催芽や出芽は28℃を目安とし、30℃以上の高温にならないよう注意！

症状：1.5～2葉期に急に症状が現れます。坪状に枯れ、第2葉を引っ張ると簡単に抜けます。第1葉の付け根が白くなることも多くみられます。放置すると症状が広がっていきます。

原因：病原菌は種子、空気中、器具等に存在します。通常温度では発病しませんが、催芽、出芽時の高温で繁殖し、感染します。

防除：もみ枯細菌病を予防するための種もみ消毒をおこなっていない場合、播種後覆土前にカスミン粒剤を1箱当たり15～20gを種籾の上から均一に散布する方法があります。もみ枯細菌病が発生してしまったら農薬では対処できません。

かん水を通して別の箱へ感染するので、発生箱は直ちに育苗ハウス外へ運び出し、廃棄してください。



疑わしい場合は、お近くのJAまでご相談ください！

【カビによる苗立枯病】

耕種的防除：①土のpHは4.5～5.5に調整しましょう。②塩水選を行い感染のない種子を播種しましょう。③厚播きを避けましょう。④温度管理を徹底しましょう。⑤かん水過多・過湿に注意しましょう。

症状	病原菌	発生しやすい環境	薬剤防除例 (500～1000倍液を箱当たり0.5ℓ灌注)	
			防除時期	薬剤および使用回数
表面やもみ近辺に白いカビ	リゾープス属菌	出芽時の高温	播種時	ダコニール1000 播種時2回
もみと根近辺に白か淡紅色のカビ。芽の褐変。	フザリウム属菌	緑化開始後の低温	播種時及び発芽後	タチガレン液剤 2回以内
ドーナツ状に枯れる。カビは見えない。ムレ苗の原因。	ピシウム属菌	緑化以降の低温、過湿	播種時及び発芽後	タチガレン液剤 2回以内
地際やもみ近辺に白～青緑色のカビ。葉の黄化。	トリコデルマ属菌	高温	播種時～緑化期	ダコレート水和剤 2回以内

注) 薬剤の使用回数は育苗期間中の回数です。

本田準備

※放射性物質吸収抑制のため、配布された塩化カリ(20kg/10a)は基肥で必ず散布してください！

濁水や稲わらの河川や湖沼への流入防止のため、「浅水代かき」をおこないましょう。

○ロータリー耕を続けると作土が浅くなりがちです。作土の耕深は15cmを確保しましょう。

○ケイカリンアップ、ベストソイルなどの土づくり資材を積極的に使用し、リン酸・ケイ酸・鉄・苦土を補給することで、根が強く食味の良い米づくりに取り組みましょう。

○畦畔の漏水を防止し、除草剤の効果を高めるとともに、低温時の深水管理に備えましょう。

(参考) ～たい肥を散布した場合の基肥施用量～

牛ふん堆肥1t(窒素成分11kg/t、有効化率20%)から供給される有効な窒素成分量は、2.2kg/tです。

散布した堆肥の量に応じて供給される有効な窒素成分量を、化成肥料の施用量から減肥しましょう。

例えば、基肥一発コシヒカリ専用の場合、通常40kg/10aの施用ですが、25kg/10aに減肥しましょう。

また、コシヒカリ専用の場合、通常40kg/10aの施用ですが、26kg/10aに減肥し、追肥は生育状況に応じて判断してください。

箱施薬 ～いもち病・虫害対策～

○箱施薬剤によるいもち病と水田初期害虫の同時防除が省力的です。

○市内でも、カーバメート系殺虫剤抵抗性ドロオイムシが発生しています。

昨年被害を受けた地域では、スタークル粒剤・ダントツ粒剤等の非カーバメート系殺虫剤を使いましょう。

また、抵抗性害虫の発生を防止するため、3年程度を目安に使用する薬剤を変えましょう。

主な防除薬剤 (いずれも使用回数1回、1箱当たり50g使用) ～薬剤は、規定量を散布しましょう！～

①播種前または、播種時(覆土前)～移植当日 … 嵐プリンス箱粒剤6、ツインターボ箱粒剤08

②緑化期～移植当日 … Dr.オリゼスタークル箱粒剤

③移植3日前～移植当日 … Dr.オリゼダントツ箱粒剤、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤

田植え ～風のない暖かい日に実施し、植え付け本数は1株当り3～4本程度にしましょう！～

○本数多い→茎が細くなり、倒伏に弱く、穂も小さくなります。

また、根も酸素不足で細根となります。

○深植えは→下位分げつが発生しにくく、生育が遅れ気味になります。

苗が転ばない程度に浅く植えましょう。

「春の農作業事故防止運動展開中」(4/1～5/31)

○農機用後部反射材などによる事故予防を。

○農作業は無理せず「安全第一」で。

～目指せ農作業事故ゼロ！～



田植え後は・・・

補植用の取り置き苗は、いもち

病の感染源になるので、速やかに

廃棄して下さい。

地域全体でいもち病の感染源を

なくしましょう。



※この資料は、平成26年3月10日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています※